

# 牛久：学校周辺に見る自然

第2号

牛久二中、宮内家（稲敷市）

2012年4月17日発行

## < 春のバッタ >

春の生き物シリーズ。今回は、バッタの仲間。「春にバッタ？」と不思議に思うかもしれませんね。そう、ほとんどのバッタは、卵で冬を越します。でも、何事にも例外というのはつきもので、バッタの中にも成虫で越冬するものが知られています。といっても、次の2種類だけのようですが…。



まずは、**ツチイナゴ**。名前の通り、「土」のような淡い褐色の体で、眼の下に涙を流したような模様があるのが特徴。草の茂ったようなところに多く、クズの葉をよく食べるそうです。秋から冬の成虫時にはこんな色ですが、草木の緑が多い幼虫の時には、緑色の体をしています。きっと外敵からかくられる効果があるのだろーと思いますが、よくできていますね。

ツチイナゴ（バッタ科）：成虫越冬する大型のイナゴ。越冬時以外は葉の上にいることが多い。3/21 牛久二中



こちらは、クビキリギス。庭の草取りをしていたら、落ち葉の中でじっとしており、まるで冬眠からさめたカエルのように、にぶい動きでした。写真をとるのにちよつとの間だけ落ち葉をどけて、またかぶせました（上2枚）。まだ眠かったね。ごめんね…。と思ったら、近くにもう1頭。こちらは、ゆっくりとですが歩きまわっていました（下）。【理科支援員：宮内】

クビキリギス（キリギリス科）：あごの力が強く、首がぬけてもかみついているのでついた名。3/25 稲敷市